

2020年10月7日

お取引先様各位

旭電機化成株式会社 営業部



弊社商材「貼るだけ簡単ウイルス対策シール」に採用している漆喰塗料が

新型コロナウイルスに対してわずか接触5分で99.9%以上の不活化を実証

拝啓 貴社ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のお引き立てをいただき厚く御礼申し上げます。さて、弊社商品「貼るだけ簡単ウイルスシール」AUS-101~AUS104 に採用している関西ペイント社の漆喰塗料が関西ペイント社と長崎大学熱帯医学研究所の共同研究結果により、新型コロナウイルスに対して5分で99.9%の不活化効果がある事を確認しました。以下、長崎大学・関西ペイントプレスリリース引用です 引用元 URL : <https://www.ccpid.nagasaki-u.ac.jp/20201005-3/>

漆喰塗料の新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)に対する不活化を実証 <わずか接触5分で99.9%以上を不活化>

長崎大学 感染症共同研究拠点 安田二郎教授は、関西ペイント株式会社(本社：大阪府、代表取締役社長：毛利 訓士)とウイルス研究分野における第一人者である同教授とが特許を持つ漆喰塗料の新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)に対する不活化実証試験を共同で実施し、接触5分で99.9%以上の不活化効果を確認いたしました。*本実証は、実験室での評価であり、商品や実使用環境での効果を示すものではありません。

日本古来の自然素材の建築材料である「漆喰」は、その主成分である消石灰(水酸化カルシウム)が有する強アルカリ性により、抗菌・抗ウイルス・消臭や調湿など優れた機能があります。

同社は、2007年に消石灰塗料化技術を活用し、「漆喰塗料」という新たなカテゴリーを創出し、2016年には、不織布や紙などに塗布可能な高柔軟性漆喰塗料も開発しました。同年には本学の安田二郎教授の指導のもと、ウイルスの不活化実証実験を共同で行い、代表的なノンエンベロープウイルス(1種類)、エンベロープウイルス(3種類)の全てに対して効果があることを実証しています。

<長崎大学 感染症共同研究拠点 安田二郎教授のコメント>

「前回(2016年)の実証試験の結果から、新型コロナウイルスでも良好な抗ウイルス効果が確認できるものと考えていました。更に今回は5分という短時間でかつ99.9%以上の高い不活化効果が確認できたことは漆喰塗料の潜在能力の高さを感じました。様々なものに塗布できるため、幅広い用途展開すなわち汎用性が高く、特に医療や老健施設などにおける衛生環境の向上に期待がもてると思います。」

・バックデータなどのご提供は論文発表されてからの公開となります

敬具